

新年のごあいさつ



大山 茂樹

さぬき市長

新年おめでとうございます。

市民の皆さんにはお元気で、希望に満ちた令和8年のお正月をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は市政に対し、格別のご理解とご協力を賜り、誠に有難うございました。

昨年は、日本で55年振りに大阪・関西万博が開催されたほか、香川県では、6回目となる瀬戸内国際芸術祭が行われ、さぬき市も、志度と津田エリアで初参加したこともあり、インバウンドを含む多くの観光客の皆さんが、本市を訪れてくれました。

また、NHKの大河ドラマ「ぐらんぱう」の放映により、平賀源内の生家や記念館が注目されるとともに、志度寺創建1400年の記念イベントも好評でした。

市としては、引き続き、これらに加え、大串半島の「時の納屋」や「四国靈場上りぎり3か寺」等の観光資源の、一週性ではなく持続可能な活用に努め、地域の活性化を図りたいと考えています。

なお、昨年7月に実施された参議院議員通常選挙の結果、参議院においても自公連立与党が過半数割れとなり、自由民主党では、女性で初めての高市早苗総裁が誕生しました。そして、国会では、内閣総理大臣に指名されました。

不安定な新しい自維連立政権の下、まさに政治状況は混沌としており、当面は不安定な政局が想定されることから、市においては、市民の皆さん的生活を守るために、可能な限りの取り組みに努め、その役割を果たしてまいりたいと考えています。

また、地球温暖化等の影響もあり、日本各地で台風や大雨の被害が頻発しました。本年は、平成23年の東日本大震災から15年の節目にあたりますが、近い将来発生が予測されている南海トラフ巨大地震を含めた、自然災害へのハード・・ソフト両面の対応が、強く求められています。

そうした中、世界では、長期化するロシアによるウクライナへの軍事侵攻をはじめ、イスラエルとパレスチナの対立や北朝鮮の核とミサイルの問題、さらには、「自国第一主義」を掲げる米国のトランプ大統領の関税措置を始めとする、米国と中国との覇権争いなど、予断を許さない状況であり、日本を取り巻く外的環境も一段と厳しさを増しています。

そして、現在我が国では、依然として円安等によりエネルギーや物品価格等の高騰が続いており、日本経済は、先行き不透明な状況となっています。

加えて、本市では人口減少対策が喫緊の

課題となつております。地方交付税や市税収入等の大幅な減少が見込まれる中で、極めて厳しい財政状況が続くものと覚悟しなければなりません。

今後、これまで以上に地方創生に向けた取り組みを進め、「量」から「質」への転換を図り、「ひとつ上の質の良さ」を実現してまいります。

結びに、本年が皆さんにとりまして、ますます「健勝で」「多幸の年となります」と心からご祈念申し上げ、新年のごあいさつとします。

